

# 親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に団体参拝

—五十年に一度の尊いご勝縁に会う—



団体参拝した46名の代表の皆さん

(後方の御影堂には2,700人分の仮設参拝席が設けられ堂内全部で3,700人のイス席が用意されていた) 23.4.16



発行所  
岡谷市郷田一丁目6番3号  
TEL(0266)22-2524  
金松山 敬念寺  
発行  
敬念寺門信徒会  
編集  
集  
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや  
彼(か)の人との  
出会(であ)いの時間

## 小僧の目

▼前号の発行、お届けの時期と重なる三月十一日、東日本大震災という、わが国がかつて経験したことのない未曾有の災害が起こり、恐ろしい原発事故にもつながりました▼多くのいのちが失われ、家や町、財産も一瞬のうちになくなり、住みなれた故郷を後に強制避難など、今なお悲しみにくれる多くの方々がいます▼そのような中、私達は五十年に一度の尊いご勝縁である「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」に参拝してまいりました▼お念仏を共にするお仲間として被災された方々と心を共にするとともに、今回のご法要の願いである「世の中、安穏なれ」とお示しくくださった聖人のみ心に思いをはせ、一日も早い復興を願ったことであります▼科学技術の恩恵なしにわたくしたちの生活は成り立たなくなりまして▼しかし、今回の大震災で、自然界の前ではいかに人間が無力であるかを痛感させられました▼時代は違いますが、聖人も相次ぐ争乱や、自然災害、それに伴う大飢饉など混乱の世の中にあつて、真実のみ教えを求められました▼人々の悲しみ、憎しみに真正面に向き合われ、阿弥陀如来のお救いをあきらかにされ、そのお救いの確かさに安心していく姿勢が周りの人々に生きる力や喜びを与えられたのではと思われまます▼星野富弘さんの詩に「よるこびが集ったよりも、悲しみが集った方が、しあわせに近いような気がする」▼この詩を読んでマスメディアによって伝えられる数々の感動的な人間ドラマが目には浮かんできました▼悲しみが集ったとき、人は人生の実相に直接触れるご縁となることも▼ひとりひとりが今までの生活を見直し、自分が今できることを継続的に行動で示すことが「今」大切だと思います。

釋 玄真

### ご寺院行事

- 7月 9日(土) 第28回ファミリー参拝 後 6:00
- 8月 1日(月) 第32回早朝連続参拝 前 5:30
- ~ 10日(水)
- 8月 7日(日) 新盆合同法要 前 10:00
- 8月 16日(火) 盂蘭盆法要 前 10:00
- 9月 23日(金) 秋の彼岸法要 前 10:00

### ご定例法話会

- 6月20日(日) 講師 八幡徹信先生 (岐阜県)
  - 7月20日(水) 講師 青木哲静先生 (富山県)
  - 8月20日(土) 講師 常盤井智海先生 (飯山市)
  - 9月20日(火) 講師 青木長生先生 (栃木県)
  - 10月20日(木) 講師 高島正鶴先生 (兵庫県)
- いずれも毎月20日 夜7:00からです

# 平成二十三年年度年次総会開催さる

## 小池健蔵門信徒会長辞任・新会長に大洞軍治氏

平成二十三年度敬念寺門信徒会年次総会が四月二十九日開催された。総会に先立ち、本山大遠忌法要団体参拝の記録ビデオが上映され、続いて、先ごろ設置されたAED（自動体外式徐細動器）の取扱説明が岡谷消防署員によって行われた。勤行に続き、新任お世話人の紹介と委嘱が行われた後、六十四名のお世話人（代議員）の出席を得て総会を開催、議長に倉坪宏夫氏を選出し議案の審議が行われた。

平成二十二年事業・決算報告を承認後、役員改選の件が提案された。小池健蔵門信徒会長から、体調不良により辞任したい旨の表明があり了承された。

その後役員選考委員会で選考した案が発表され、大洞軍治氏が新会長に選任された。

大洞会長は、「急な要請で再び会長を引き受けることになったが、門信徒会の次代を担う役員構成への展望が本年度の課題である。」との就任挨拶をされた。

また、社会奉仕委員会副委員長

が西山周治氏から吉田龍司氏に交代する案件も承認され、お二人から挨拶があった。  
引き続き二十三年度事業計画・予算を原案どおり承認し閉会。



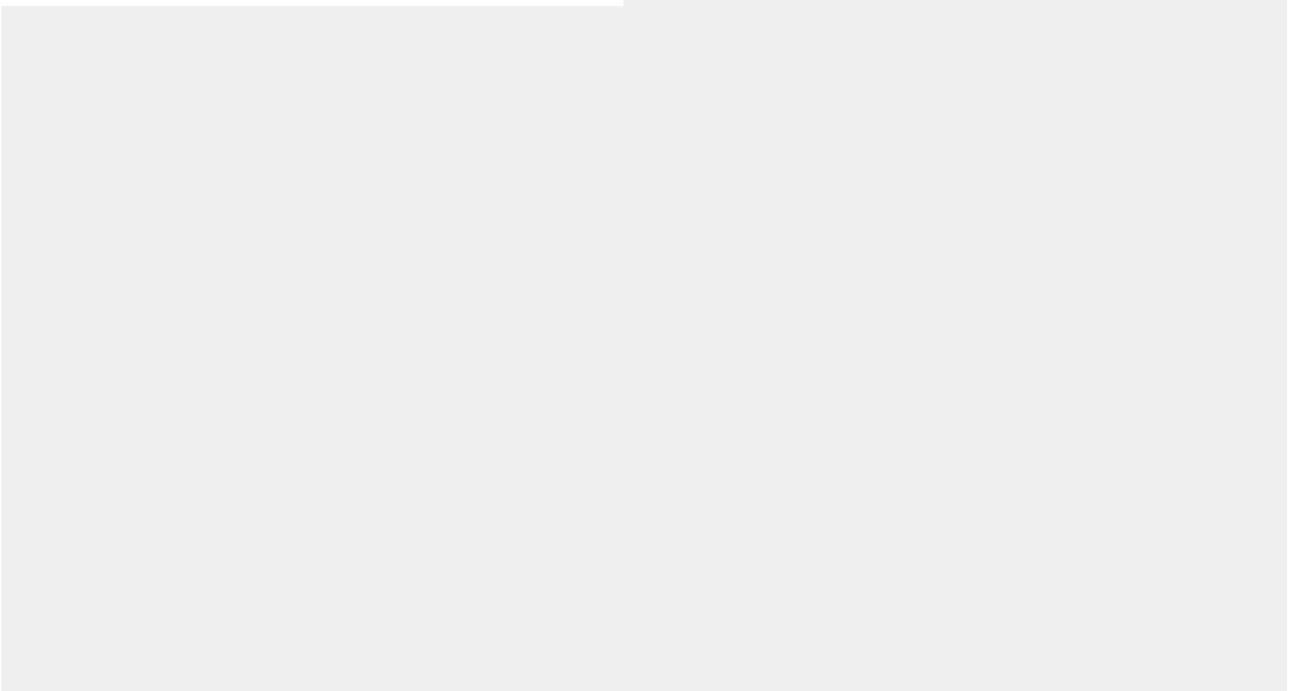
挨拶する新旧社会奉仕委員会副委員長



お世話人を委嘱する住職



AED取り扱い講習会の様子



# 御影堂に響いた三千七百人の音楽法要 —親鸞聖人七百五十回大遠忌法要団体参拝報告—



大遠忌法要敬念寺団体参拝・団長

大洞 軍治

四月十六日、本山・西本願寺で営まれた親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に、門信徒会を代表して四十六名が団体参拝をしてまいりました。御影堂に響き渡った音楽法要・お念仏に参拝者一同それぞれにご勝縁に遇えた喜びと、大きな感動を味わうことができました。

団体参拝を終えた今、親鸞聖人が願われた、「世の中 安穩なれ」のお言葉が、東日本大震災の惨状を思うにつけ、心に沁みてきます。仏教（浄土真宗のみ教え）を生活の中心に置き、自分のためだけでなく、他人のために「安穩」を願う日暮しが大切であるとの思いを強くしています。敬念寺として平成十八年から進めてきた聖人大遠忌への取り組みは、今回の団体参拝をもって円成しました。ご勝縁を機に確かな歩みを進めてまいります。



当日の法要でのご門主と新門さま（本願寺新報から）

## 団体参拝参加者の感想

今回の大遠忌法要に参拝された皆様から感想文を寄稿していただきました。以下掲載し、門信徒の皆様へのご報告といたします。なお、紙面の都合上、文面を割愛・編集して掲載しておりますのでご了承願います。（会報組織委員会）



▼御影堂の中央に座らせて戴き、御真影を拝しながらの音楽法要でのご参拝は心の奥に沁みこみまし

た。全国からご参加の皆様とお念仏の大合唱が今でも耳に残っています。 小宮山 良一

▼御影堂での三千七百人の門徒による宗祖讃仰作法・音楽法要の大合唱がひとつの音となった。今回の大震災で被災された人々への気持が一つになった瞬間は感激しました。 宮嶋 一守

▼御影堂での大遠忌法要に参拝している現実をかみしめ、感動一杯でした。 一木 千恵子  
▼心に深く沁みる多くの感動をいただき今回の参拝に参加できたことを感謝します。 巻洲 幸子

▼三千七百人が一心不乱に唱える念仏・和讃の大合唱、厳粛な作法に感激しました。 小原 正三  
▼御真影の前に、荘重な音楽法要で三千有余人にて唱えられる正信偈の響きに包まれる中、苦難を超えて脈々受け継がれてきた聖人のみ教えの尊さと法灯・宗門血脈の伝統を実感し、大きな感動がわき起こりました。 千原博幸・みち子

▼御影堂での三千七百人の音楽法要、和讃・念仏・恩徳讃に感動しました。 石川 美代子

▼生涯に一度の大遠忌法要に参拝でき、またお朝事にも参拝させていた、だき身の引き締まる経験をすることができました。 北條 栄治

▼本山大遠忌法要参拝の機会に恵まれ、お念仏のみ教えに遇い得た喜びを感じました。皆様に感謝し、この喜びをお伝え出来る様努めてまいります。 谷腰 富春

▼御影堂に導かれ、御真影の傍近くで参拝することができました。音楽法要は、参拝者が一体となったかのような厳粛さに胸が熱くなる思いでした。一重に阿弥陀如来様のおかげさまと感謝の気持ちでいっぱいです。 宮下 アキ子

▼自分の声が三千七百人の中に飲み込まれて一つの念仏となる。 小原 久代  
▼「感動」、「感激」。一生に一度の良い思い出になりました。 鷹野原 仁

▼親鸞様大遠忌法要のご縁をいただき、皆様と参拝した荘厳なる響きに身が震える思いがしました。 滝川 育子

▼大遠忌法要に参拝させていただき荘厳な読経の中、自らを無に、弥陀の本願に帰依する御縁を戴き有難うございました。 川窪 照昭

▼宗門が一体となつての法要に参拝させていただき、感動と共に感謝いたします。五十年に一度の大遠忌法要、これがこれまで脈々と受け継がれてきたみ教えに遇い得た喜びなのでしょう。 吉田 龍司

▼宗祖親鸞さまのご法要がつとめられる御影堂は私たちの「このころのふるさと」とご門主がおっしゃっています。ご勝縁をいただいで御影堂に参拝し、御真影さまに、今日まで生かされてきたわがいのちを、隠す事なく受け止めていただいでまいりました。中島 俊一

▼「世の中 安穩なれ」のスローガンのもと行われた、大遠忌音楽法要。三千七百名が一堂に会し、厳肅に、整然とお念仏することに本当に感激しました。青木 さと

▼御待ち受け法要・記念事業のスタートから役員の一員として参画させていただきました。お陰様で貴重な経験をさせていただきました。役員を交代し、自分には今回の団体参拝が最後の行事となりました。行程二日目からは、はからずも修学旅行の再現もさせていただきました。四十数年前を懐かしく思い出しました。西山 周治

▼やはらかき銀杏の色や阿弥陀堂風薫る太鼓合図の遠忌かな  
春光や晨朝に息詰めて畏めり  
川窪 輝子

▼大遠忌法要に夫婦二人で参拝させていただきました。大勢の人々が、心を一つにした念仏の大合唱の感動は一生忘れないでしょう。

角川文人・操子

▼五十年に一度のご勝縁に恵まれた大遠忌法要に参拝でき、また翌日のお朝事にもお勤めができて感激でした。清水 博次

▼大遠忌法要に感動し、また翌朝のお朝事にお勤めでき、二重の感動を味わいました。ご門主、新門さま、若い修行僧、一門の方々と一緒に晨朝のお勤めができ身の引き締まる思いでした。北條みわ子



23.4.16 法要開始前に親鸞さま御真影前にて

▼二年間待ちに待った大遠忌法要。三千七百人による、厳肅な法要には感動のみでした。小松 滋子

▼大遠忌法要に、御同朋四十五名と参拝させていただきました。一座三千七百人の法要を体験させていただき、一生の思い出となりました。渡辺 和枝

▼本山の法要には初めて参拝いたしました。五十年に一度のご勝縁に緊張して法要を待つ中、定刻、奏楽の音とともに諸僧入堂。厳肅な雰囲気にも包まれた御影堂で大遠忌法要が勤められました。すべてに感激し、全国から訪れた皆さんと共に念仏し、一層「御同朋・御同行」のみ教えを

心に刻んだひとときでした。矢野 保夫  
▼厳肅な空気の内にも始まった大遠忌法要。ご門主の、「ご一緒に念仏申しませう」のお言葉で念仏の大合唱がはじまり、そのとき、体が震える感動を覚えました。白田 正夫

文芸句  
〈俳句〉

天竜町 佐々木 澄子

- 味噌醸す音プクプクと春近し
- たんぼぼや米寿迎えて姉若し
- 余生なる今が愛ほし春の虹

Q なぜ浄土真宗では、お盆に「迎え火」や「送り火」をたかないのですか。

A お盆はお釈迦さまのお弟子、日蓮さまの母を想う心のもとになった、温かい心から生まれた仏教行事です。亡き人は阿弥陀さまの功德によって、すでにお浄土に往生しているのですから、お盆だからといってわざわざ帰ってくるの

照らしつづけて下さっているのです。従って他の宗派のように「精霊棚」を作ったり、「迎え火」や「送り火」をたかないのです。

いつもよりお仏壇をていねいにお飾りし（必携Ⅱ赤い本の第六章二三九頁参照）、お盆を機縁に家族そろって御仏壇におまいり、墓参や寺での聞法を通して、一層阿弥陀さまのお慈悲や、ご先祖のお蔭で今日のいのちがあることを喜び、感謝させていただきます。

敬念寺では八月一日より、早朝連続参拝、特に七日の特別法話会、新盆合同法要、十六日の盂蘭盆法要などがあります。

仏事なんでも相談 Q&A No.8

東日本大震災に敬念寺では

— 悲しみに寄り添い・思いを分かち合う —

① 三十八万三千余円の善意

— ありがとうございました —

震災直後より寺の二ヶ所に募金箱を置き、皆様の篤い善意を五月末日までお寄せいただきました。全部で三十八万三千二十九円の浄財は本山・教区を通じて被災地に義援金としてお届けしました。

② 親の消息を訪ねて

— 車で八時間の苦闘 —

川岸東の湯本邦宣さんの奥様の実家が岩手県山田町。十一日より音信不通。まんじりともしない時間が過ぎ、四月になって五人家族が山の上の学校に避難していることが分かり、まだ道路事情も悪い中をご夫婦で水や菓子など必要なものを積んで、一日がかりで見舞い訪問。生家をはじめ、一面集落の跡形もなく無残な状況。六月中旬にやつと仮設住宅へ移る予定という。

被災地東北で炊き出し奉仕

— 北海道ビハラの呼びかけで —

敬念寺の門徒推進員の西山周治さんはビハラ活動養成研修会終了者のお仲間と共に、六月三日より六日まで本願寺仙台別院に仮泊

気仙沼警察署前にて



仙台別院



し、宮城県気仙沼市の被災地でジーンズカンと札幌ラーメンなどの炊き出し奉仕に活躍しました。北海道から九州までのビハラ仲間十一人に支援者を加え二十人の本願寺隊は、昼食に合わせ炊き出し。地元の方やボランティアの方々が「おいしい」と大喜びでした。周囲を歩くと側溝にたまったヘドロが異臭を発し、これからの大変さを予感させます。

仙台別院の本堂は物資の山で、朝の参拝者と一緒に物資のスキ間に座り、讃仏偈を勤めさせていただきました。

今年も敬念寺教化活動 (前半) 目じろ押し!

第28回 敬念寺ファミリー参拝のお知らせ

日時: 7月9日(土) 夜6時~8時  
会場: 敬念寺本堂ならびに境内  
内容: 「おつとめ」「プロジェクター紙芝居」「お話し」「和太鼓演奏」「流しソーメン」「輪なげ」「ジャンケン大会」「綿あめ」「ポップコーン」「生ビール」「麦茶」を予定

ご家族おそろいでお出かけください。  
(おつとめがありますので、念珠をお持ちください)

— 今年ファミリー参拝 —  
創作太鼓の演奏も!

ご門徒の東方 健さんが中心の鼓楽「響楽舎」の太鼓連の皆さんの演奏があります。岡谷太鼓打ち比べ大会で最優秀賞の腕前。森の木陰でドンジャラホイ“で有名です。例年通り演奏前に紙芝居、「おまいり」とお話し。本堂下での流しソーメンやゲームなど盛りだくさんのプログラムです。ご家族おそろいでお出掛けください。

第三十二回

早朝連続参拝のお知らせ

八月一日(月)~十日(水)  
朝五時半~六時二十分

今年も正信偈の「おつとめ」の後「和讃のお話し」、日替わりで参加者の「感話」などがあります。

特に七日の日曜日は特別講話に堀越学園の金八先生と言われている赤川浄友先生を迎えて「法話が好きになる」法話をお聞きします。「一日五回笑って、五回感動しましょう」から始まるお話し。今からお楽しみimine!

— 婦人部日帰りバスツアー —  
四十二名の参加者たんのう—

婦人部では隔年行事で研修旅行を行っています。今年には童謡の故郷真宝寺、英国式バラ園のある中野市一本木公園の「二〇一—なかのバラまつり」を中心に飯山市に開設した高橋まゆみ人形館、葛飾北斎の天井絵で有名な、小布施町の岩松院などをめぐる楽しいバス旅行を行いました。特にバラは計八五〇種類、二五〇〇株。高さ十一メートルのやぐらに絡ませたバラタワーは見応えがあり、参加者一同大いに堪能いたしました。

トピックス二題

—NPO法人・成年後見人制度  
学習会の開催—

さる六月六日、門信徒会役員と婦  
人部の代表を対象に学習会が開催さ  
れました。高齢者の対応など、NPO  
法人松本ライフデザインセンターの  
久島和子先生よりお話しをお聞きし  
理解を深めました。



▲成年後見人制度等についての  
勉強会 23.6.6

—AED(自動体外徐細動器)  
を会館に設置—

常任委員会で設置を検討していた  
AEDが、このほど会館入り口に設  
置されました。急病者発生時に音声  
ガイドに従って操作し、必要があれ  
ば心臓に電気ショックを与える医療  
機器です。救急車が来る前にできる  
応急措置となり、救命に役立ってい  
ます。四月門信徒会総会の前に講習  
を受けました

会館入り口に設置されたAED



成年後見人……高齢等により判断能  
力が不十分になっても不利益をこう  
むらならないように、法律面や生活面を  
支援する後見人。契約で決める「任  
意後見人」と裁判所が選任する「法  
定後見人」の二種類がある。



▲本堂に掲額されている「安穩」

『世のなか 安穩なれ』

親鸞聖人七百五十回大遠忌のスロ  
ーガンです。これは、親鸞聖人が不安  
と争いの時代にあつて、念仏者のめ  
ざす道を示される中で述べられた言  
葉です。敬念寺本堂内には、このお言  
葉を書家村石龍仙氏が揮毫し、掲額  
してあります。



▲団体参拝記念写真 (法隆寺：23.4.17)

爽やかな五月晴れの天気の実感  
が湧かないうちの梅雨入りです。  
今号は、敬念寺大遠忌記念事業  
の最後となる本山大遠忌法要・団  
体参拝の記事を中心に掲載いたし  
ました。  
大遠忌のご勝縁を契機にした、  
敬念寺の「新たな始まり」の動き  
が少しずつ展開されてきています。  
朝七時からの日曜礼拝や八月の早  
朝連続参拝、コールガンダーなど、  
今年度の教化活動にも多くの皆様  
が参加していただくようお待ちし  
ています。  
(白田 記)

編集後記

御世話人の異動(敬称略)  
23・4・29付  
退任 小池 健蔵(神明町三)  
新任 榎井 清三(神明町二)  
木下 正一(塚間町二)

門信徒会費  
七月末日までにご協力お願い  
今年も寺の維持管理の資金、  
更なる教化活動の振興のため、  
会費のお願いに担当のお世話  
人が近日中にお伺いしますが、  
ご協力の程お願いします。  
○ご依頼額は年間三千元以上